

# ひなばと



～NPO法人ピピオ子どもセンター 会報～  
vol. 17

平成28年2月5日

## ピピオ子どもセンター設立5周年記念シンポジウムを開催しました

### ～ピピオ設立5周年を祝して～

平成28年1月24日に、ピピオ設立5周年を祝して、ピピオ設立5周年記念シンポジウムを開催しました。

10年に1度の大雪波が来る！という天気予報の日でしたが、幸いにも雪は降りませんでした。ピピオ子どもセンターの5年の歩みを振り返り、また、子どもたちの実情を学ぶことが出来る素晴らしいシンポジウムになったと思います。

弁護士 寺西環江

※シンポジウムの概要は、ひなばと次号でご報告します。



ピピオ子どもセンター5周年記念シンポジウム  
—居場所のない子どもたちのスタートラインづくりのために—  
第1部 これまでの歩みそしてこれからの活動  
第2部 パネルディスカッション

## 会員の皆様へのご挨拶

中本忠子

おかげさまで、今年はピピオ設立5周年をむかえることとなります。

その間、平成23年に子どもシェルター「ピピオの家」、平成26年に自立援助ホーム「はばたけ荘」を開設し、大きな活動拠点が2ヶ所出来ました。でも、実際に運営してみると現実はきびしく、なかなか思うようにはいきません。毎日が悪戦苦闘している状況です。

今年も様々な問題が出て来るとは思いますが、その都度子ども達のことを考えて最善をつくしていきたいと考えています。

どうぞ、皆さま方のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます、

ピピオ子どもセンター副理事長 中本忠子

2015年11月20日・21日、新潟市の朱鷺メッセで開催された「日本子どもの虐待防止学会（JaSPCAN にいがた）」に参加して来ました。久しぶりの参加で、大いに刺激を受けてきました。その一部をご報告します。

私は、平素目先のことにばかりとらわれて

日々を過ごしていますが、JaSPCANで先端的な議論を聞き、参加者の方と交流することは自分の活動を振り返る機会にもなりました。今年は大阪ですので、ピピオの仲間たくさんで駆けつけられればと思いました。

理事 平谷優子

## 1 「少年非行と虐待」小栗正幸さん

小栗さんは、少年鑑別所所長等の経験を踏まえ、子どもを虐待する保護者や、虐待後に非行に陥る子どもとの関わり方等全般について話されました。非常に印象深かったので、少し詳しくご紹介します。

### (1) 嘘をつく子の分析

#### ①勝手に口が動くタイプ

＝大事件が周囲で度々起きる(？)、言わなくていいことを言う等

→多弁を背景とし、ある種のサービス精神からの発言

追及すると次の嘘をつかせることになるので、暴かない方がよい。

#### ②意地悪な嘘

＝ものを隠された、誹謗中傷のメモが置かれていた等

→自作自演を疑わせるが、その裏で何かを訴えているので、そこを理解して「どうして欲しいのか」を尋ね、望む対応をしてあげる方がよい。

#### ③見え透いた嘘

＝ある子がなくした物がAの鞆からみつかったがAは否認する等。

→嘘を暴くことに情熱を傾けても子どもは救われない。

確実な事実(泥棒行為が行われているかもしれないこと)を指摘して、しばらく置くと、Aは気にして「どうなった？」と尋ねてくることがある。そのときが話すタイミング。

犯罪行為については「〇〇をすることは悪いことだ」と事実のみ話すべき。理由を聞けば言い訳のきっかけとなり、認めたことを褒めれば全て許されたと誤解するおそれがあるのがその理由。

### (2) 女子の性的逸脱行動について

女子の性的逸脱行動(これを小栗さんは「性的エラー」と呼ぶ)の背景に、性被害がほぼ100%絡んでいる。「性的被害」の中には、家族や代理者からの性虐待はもちろんだが、「ナンパ」の名を借りた性暴力の占める割合も大きい。自尊心

の獲得に課題を抱える女子にとって「かわいいね」と言われ、飲食代全てを支払ってくれることは「大切にされてる」と感じる快体験で、そのままついていくと危ない気がしていても断れない。本心は性的行為は望まないものだったのに、行為後に金品を受け取ることに絡み、性的行為の「被害」が巧妙にカモフラージュされ、被害経験として認知が生じにくい状況が形成されている。彼女たちは、激しい内容のDVDを「みんなしていること」として見せられ実践させられていることが多い。こうして「被害」感が希薄なまま、刹那的な「大切にされている」感覚を求めて盛り場へ足を運んでしまう。

性的エラーを起こした少女には、一般的な妊娠・性感染症や啓発的性教育は威嚇と受け止められて終わりである。性欲や快感を得たいと思うことを肯定したうえで個別対応からしか、安易な性行為への用心深さは生まれない。

## 2 「性被害/性加害への治療的介入」藤岡淳子さん

藤岡さんは、主に性加害への介入の視点で話をされ、こちらも示唆に富むものでした。加害少年への対応については紙幅の都合上ここでは割愛し、印象に残った「パスウェイ 同意に基づく関係を構成するブロック」を紹介します。これは、以下のパーツをアーチ橋のブロックのパーツとみだててはめ込み、その一つでも欠ければ「同意に基づく関係」(の橋)が壊れるという例えで、セクハラ対策としても分かりやすいと思いました。パーツは以下の通り。①情緒的に対等、②適切な年齢、③嘘がない、④双方がOK、⑤嫌だと言える、⑥結果を二人とも理解している、⑦どちらもしらふ、⑧知的に対等、⑨愛情や思いやりがある。

3 夜は、本年1月24日のピピオのシンポジウムでもお世話になった子どもセンターモモ(岡山)の西崎宏美さんと合流し、一緒に夕食を食べながらそれぞれの活動状況等について話しました。

## 子どもシェルター全国ネットワーク会議に参加しました。

昨年10月10日と11日に、子どもシェルター全国ネットワーク会議が名古屋で開催されました。同会議は全国各地で子どもシェルターを設置運営する団体と設置に向けて準備をしている団体が所属し、年に一度、一同に会して各地の状況報告や課題を検討するとともに、新たに設置する団体への情報提供等をおこなっています。

ピピオが設立された当時は子どもシェルターは全国で5つしかありませんでしたが、その

後全国に広がり、この度の全国会議では北は北海道、新潟、南は熊本、沖縄まで設立準備中の所も含め全国から20の団体が集まりました。

それぞれの子どもシェルターでは各地の実情に応じて特色のある運営をしていますが、困難を抱えた子どもたちをどのように支援していくかという悩みは共通です。各地からのご報告を聞き、ピピオの運営にも活かしていきたいと考えております。

理事 那須寛

## スタッフ通信

「ピピオの家」スタッフのNです。

スタッフとして働き始めて、早5年が過ぎようとしています。5年を前に、私の成長したところはあるのか？と自問自答し、振り返ってみました。

以前に比べると、少しは料理が出来るようになった事・・・くらいです。

元々、お菓子作りには興味があり、よく作っていたのですが、お菓子作りと料理作りは全く別ものでした。

他のスタッフさんやボランティアさんに比べると、まだまだかなりの時間を要したり、味も決まっていなかったりしますが、入居している子どもたちから「家に居る時には、こんな料理食べた事なかった。」とか「市販の合わせ調味料（レトルト）で作るものだと思っていたから、最初から作れるとは知らなかった。」とか「美味しい。ま

た、作ってね。」等と言われると、時間がかかっても頑張って手作りして良かったと思います。

メニューのレパートリーは、まだ少ないですが、どうしたら美味しく出来るのか……。テレビで料理番組を、パソコンでクックパッドを見て研究したり、ボランティアさんにアイデア料理やコツを教わりながら、色々な料理にチャレンジし、レパートリーを増やしていこうと思います。

「ピピオの家」の入居児は女子です。時には子どもたちと共に手作りの料理やお菓子を作り、何時の日か、誰かのために腕を振るってくれる事を願っています。その時の為にも、今、私も出来る限り手作りのものを提供していきたいと考えています。

皆さま、ご指導の程、宜しくお願い致します。

はばたけ荘では、12月に子どもたち3人とスタッフ、弁護士でボーリング大会を行いました。開催前はそれぞれ、初めてなので・・・、行かない、頭が痛い等言っていた子どもたちですが、結構楽しかったようですね。



## ピピオ掲示板

### 広島県共同募金会平成 27 年度社会課題解決プロジェクトに参加しています！

ピピオ子どもセンターでは、今年度も広島県共同募金会が実施する社会課題解決プロジェクトの参加団体として活動しています。郵便局でのみ利用できる専用の振込用紙を利用し、社会福祉法人広島県共同募金会に対し、募金していただくと、広島県共同募金会からピピオ子どもセンターに対し、助成金を頂くことができます。なお、この募金活動の実施期間は平成 28 年 1 月から同 3 月末までです。

また、詳細については、広島県共同募金会のホームページ（下記 URL）を参照してください。

「ピピオの家」と「はばたけ荘」に入居する子どもたちの生活と自立の支援を行っていくために、引き続きご支援をお願い申し上げます。

[http://220.110.217.42/h-kenkyobo/kaiketsuproject\\_index.shtml](http://220.110.217.42/h-kenkyobo/kaiketsuproject_index.shtml)

### 2016 子どもの日記念シンポジウムのお知らせ 『居場所のない子どもたちのために』 ～子どもシェルター『ピピオの家』開設 5 周年を迎えて～

2016 年 4 月 24 日（日）午後 1 時 30 分～ 5 時  
会場：広島市青少年センター

第 1 部 高校生と弁護士らの演劇  
『ひなぼとの星空』

第 2 部 高校生らと弁護士の本音トーク  
(入場無料)

### 寄付等のご協力ありがとうございました

国際ソロプチミスト広島-もみじ様、井上様、籠崎様、コストコホールセールジャパン株式会社様、高桑様、佐々木様、本田様、弁護士法人あすか様、株式会社ファンケル様及び同社の「もっと何かできるはず基金」様、清水様、倉迫様、新屋様、松岡様など多数の方々から寄付（金銭、生活用品など）を頂いております。日々子どもたちの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。

この場で御礼申し上げます。

### ○平成 28 年 1 月末日時点の会員数○

正会員 個人:94 名 団体:5 団体  
賛助会員 個人:64 名 団体:2 団体

### 生活用品を募集しています

ピピオ子どもセンターでは、「ピピオの家」・「はばたけ荘」から巣立つ子どもたちへの生活用品（家具家電含む）等の提供を行っています。皆様のお手元にあります、使われていない生活用品等をご提供頂ければ幸いです。

### 事務局雑記

○私事ですが息子が人生の節目（慶事です）を迎えます。小さい時はベビーカーやおんぶ紐など使わず、もっばら抱っこしており、今でも腕にその時の重みの記憶が残っているような感覚があるのですが・・・やはり成長するんですね。

隣の縮景園は梅が見頃です



発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局

〒730-0014 広島市中区上機町 2 番 36 号 S・ウィングビル 505 号

TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659

ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>